



エジプト発！初めての日本語フリーペーパー



EGYPT WORLD STATION



エジプト世界駅



祝★創刊3周年！

ピラミッドから日本のお茶の間へ

10000キロの距離を超えて

情報発信中！

Published by



Official Sponsor



Sponsor



Supporters



EGYPT エジプト

夢の休日

2015

エジプト生涯の思い出となる旅

YOU TRAVEL A.R.G DELIVER

www.arg-travel.com



A.R.G Travel
Local Tour
現地発着ツアー



A.R.G Travel
Package Tour
パッケージツアー



A.R.G Travel
Optional Tours
オプションツアー



A.R.G Travel
Belly Dance Festival
ベリーダンス祭りツアー

日本駐在デスクがアシストしますから安心。
こちらはエジプト現地発着の旅行を掲載しております。



A.R.G Travel
Long Nile Cruise
ロングナイルクルーズ



A.R.G Travel
Air Ticket
航空券



A.R.G Travel
Abu Simbel Rising Sun
アブシンベル朝日祭ツアー



A.R.G Travel
Hotel Booking
ホテル

回答のスピードが速い。クレームが無い。 お得な価格の充実したエジプト旅行プラン。 視察、調査など、あらゆるエジプト旅行を手配可能。
オリジナルなエジプト旅行のプランをお見積もりします。 日本でのお申込み、お問合わせには、日本駐在スタッフが対応。 個人旅行にも丁寧な対応。



CALL : 06-6770-5218 / 080-1393-4042

reservation@arg-travel.com

www.arg-travel.com

facebook.com/ARG.Travel.Co.Ltd

twitter.com/ARG_Travel_EGY

Google+ ARG Pharaoh

STAFF

編集長
Abdo Zidan

副編集長
Radwa Assem

編集補助
Dalia Ramadan

チーフコーディネーター
Mariko Asano

日本コーディネーター
Ayako Sakumichi
Megumi Inoue

エジプトコーディネーター
Mohamed Younes

ライター
Reham Nabil
Dina Mahmoud
Nancy Mustafa
Mustafa El shinary

翻訳
Mohamed Fawzy
Dalia Ramadhan

校正
Akemi Goto
Rina Mori

デザイナー
Gufran Munajat

カメラマン
Ahmed Farouk
Mohamed Saïd

マンガ
Tomoko Oroguchi

サイトエディタ
Sherif El Naggar

日本オフィス
Maya Ghoneim
Ricky Warda

配布会社
MAYA BELLY EARTH COMPANY
TEL&FAX 06-6770-5218
www.mayabelly.com



カバー写真:
ギザの第一ピラミッドとラクダ
Photo by Mohamed Saïd

INDEX

4 ゲストコラム

LIVE THE MAGIC
～ようこそエジプトへ～



5 ゲストコラム
伝統舞踊タンヌーラとは?

エジプト人音楽小話
7 小話



6 文化

エジプトの縁起物



10 料理
ターメイヤ
(ファラフェル)

8-9

観光

エジプトの首都カイロ
～東京都の姉妹都市～



11 ガイドコラム

子宝とレタス



12 インタビュー
大砂嵐よりエジプト
世界読者の皆様へ



12 インタビュー
カイロっ子たち
相模を知ろう!



14 編集長コラム
～3周年を迎えるにあたって～

EWSスタッフからのメッセージ

みなさんへ♡
エジプトよりあい たこめZ
Abdo Zidan

Special Thanks to all EWS Magazine fans
for follow up which makes us feel responsibility
and hope to share your comments and suggestions.
** Radwa Assem :)

この世の中で習った知恵は
「失敗は成功の基」
だから私たちEWSチームはいつも困難
にぶつかる。失敗して。でも失敗が
何か習って。最終的に成功するんだ。
Mohamed Lawzy

愛読者の方へEWS Magazine
楽しんでいただけて嬉しいです。
Dina Mahmoud

読者の皆様へ
いつも応援して頂いて、誠にありがとうございます
Ola Rashad

ご愛読
ありがとうございます
selamat membaca Gufran

エジプトで会いましょう!
DALIA

感謝の気持ち
Ahmed Farouk Abouzaïd

エジプトの文化
Mehmet Younes Zidan

エジプトの文化
Hugs To All

エジプトの文化
Nancy Mustafa

LIVE THE MAGIC

～ようこそエジプトへ～

親愛なる日本の皆様へ

日本を含む東アジア地域を担当するエジプトの地域観光局より、日本の皆様にご挨拶を申し上げます。

本日、私は比類のない程、富んだ文明を持つこの素晴らしい国についてお話ししたいと思います。エジプト文明は、時間の流れに逆らいながらも栄光を保ちつづける歴史的建造物やピラミッドだけに反映されるものではなく、いつでもどのような問題からでも立ち直って、自由や繁栄、発展に向けて、起こる障害を克服してきた英知ある人々にも反映されています。

実際に、私たちはそれを行いました。独裁と硬直した体制から、自由で、透明性のあるオープンな体制にシフトし、たった約4年でそれによって生じる側面的な影響を抑え、定着への道を歩んでいます。いま、エジプトは輝き、全世界にその偉大な文明の光を発信する時が戻ってきました。そして、より平和な世界に向けて、地域の調整力として役割を果たすという運命に戻ってきました。

その結果、観光活動が力強く回復してきており、観光客は世界各地から再びエジプトに続々と戻って来ています。日本からも、光栄なことに、観光による運送機関の利用者数は、2015年1月～5月は前年2014年の同時期と比較し、100%の増加、すなわち2倍の増加を成し遂げています。

私たちとしても、多くの方々にご覧いただけるよう、今後数カ月に渡って、大規模な広告を含むプロモーション計画を日本でも展開していきます。しかしながら、私は日本の皆様はエジプトの魅力や、その素晴らしい文明を既にご理解いただいていると信じておりますので、多くのプロモーションは必要としないと考えています。しかし、あえて、日本でエジプト観光を促進する理由は、ただ一つ「今こそ、まさにエジプトに来る時だ」ということです。そしてこう言いたいのです。「ようこそ！エジプトへ」そして、「LIVE THE MAGIC」（今を魅惑の時へ）



エジプト観光省 極東地域担当
観光参事官：イスマイル・アメール

(ISMAIL AMER)



伝統舞踊タンヌーラとは？

エジプトを代表とする伝統舞踊といえば『タンヌーラ』といえるでしょう。

まだ日本では馴染みが少ないかもしれませんが、グルグルと回転し続ける旋回舞踊であり、イスラーム神秘主義・スーフィーのトルコのメヴレヴィー教団が神に近付くために行った旋舞が元となった、歴史ある舞踊の一つなのです。真っ白なガラベヤを着て神秘的な音楽に合わせ、静かに回転するトルコの旋舞とは対称的に、エジプトではエンターテインメントの要素を盛り込み『タンヌーラ』と名付けられています。（タンヌーラはスカートの意味）このスカートは大変重量があり1枚5kg以上にもなりますが、それを2枚、3枚と身につけ軽々と片手で持ち上げたり、提灯のように広げたりと、激しい回転をしながらアクロバティックなパフォーマンスを次々と展開！観る人々を驚きの渦へと巻き込んでいきます。エジプトでは犠牲祭、預言者生誕祭、結婚式、そして観光名所などで鑑賞することができ、観光客や現地の子供から大人まで、大変人気のある伝統舞踊なのです。

国営のタンヌーラ舞踊団『Al-Tannoura Troupe』がエジプト国内はもちろん、世界中で民族楽器が奏でる生演奏をバックにその迫力ある舞台を披露しています。エジプト国内ですと、カイロ市内ハンハリーリ市場近く、スルタンゴーリーのウィカーラ（商隊宿）にて毎週月・水・土曜日に公演を行っています。（開場18:00 開演19:30 チケット30LE ※2015年6月現在の情報です）

エジプト観光の夜のひとときに、タンヌーラを通して、エジプトの情熱と神秘を体感していただけることでしょう。

同団で12年間、舞台披露してきました私、サイード・アブデルハディが日本で唯一の本場タンヌーラダンサーとして2011年より日本を拠点に全国各地の大使館関連イベント、国際交流イベント、ベリーダンスイベント等で活動いたしております。

数々のダンスがありますが『タンヌーラ』は男性ならではの迫力ある踊りですので一度目にとするとその圧巻さは忘れることができず、リピーターのお客様が大変多いのが特徴です。さて、日本のどこかで皆様にお会い出来る日を楽しみにしていますよ！



photo by YUJI SHIRAKI

サイード・アブデルハディ (Said Abdelhady)

1999年、エジプト文化省直属の国営舞踊団『Al-Tannoura Troupe』に入団。花形ダンサーとして、多彩な旋舞技術と表現力で、国内のみならず海外でも高い評価を受ける。過去、海外では2006年、イタリアで公演されたミュージカル劇「Federico II° - La Danza del Falcone」や、エジプト映画『alwan el sama el sab3a(7th Heaven Colors)』では俳優・ファロー・イルフィシャウウィーがSufiを披露するシーンの代役として抜擢。ムハンマド・モヒーのミュージッククリップ『Ma-zloom』等にも出演。 HP : <http://said-tannoura.com/>



photo by HANINE

どこの国の文化にも、縁起の良いもの、縁起の悪いものというのがある、それによって日常的な行動が左右されることがある。その中身は自然現象だったり、色だったり、動物だったり、身近な数字などにも見られる。

日本の場合は1、3、5、7という数字、つまり奇数は縁起のいい数字だと信じられているように思う。そのため日本の年中行事の多くがこのような数字を取った日付けに行われている。お正月は1月1日、ひな祭りは3月3日、子供の日は5月5日、七夕祭りは7月7日などである。神社で結婚式を行うときは「三三九度」という儀式を行い、新郎新婦は三つの盃を三回に分けて飲み交わしたりする。これは夫婦の契りを意味する深い意味を含めるものである。また、日本では八という数字も好まれているように思う。この場合は奇数や偶数などは関係なく、字の形に由来する。八という漢字の文字はとても形がよく、下の方が広がっているから「末広がり」で幸運を思わせるものである。

さて、エジプトの民間信仰ではどうだろうか。あえて言うならば、5という数字は縁起の良い数字として信じられている。もっと正確に言えば、5という数字は「魔除け」の数字として大都会の下町や田舎の人々の間では固く信じられているようだ。これはオリエント社会に深く根ざした「妬み」の文化と密接なつながりがあると思われる。人の幸せは他人の妬みの対象になりがちなので、それがかえって羨ましがられる人、妬まれる人の災いを引き起こすものと信じられている。「妬みには計り知れない程のパワーがある」と言われるように、幸せな人の幸運をぶち壊す恐ろしい力があると信じられている。それを信じる人は、なるべく世間の前では自分の幸せを見せないように心死の努力をするわけであるが、多くは5という魔除けの数字を色々な形で使って身の回りを固くガードしようとする。新しい車や家具を買ったりした人が、もし他人に値段について聞かれたりしたら、わざと答えるときに5という数字を入れて5万ポンドだとか5500ポンドだとか言ってみたりするのである。これは言葉で表した例だが、場合によってはこの数字を形にしてガードすることもある。最も知られているのは、手のひらをした形のペンダントや飾り物、つまり、お守りのようなものとなる。買ったばかりの車のフロント・ミラーに手のひらの形をした大きなペンダントをぶら下げたり、新婚夫婦が同じような飾りものをマンションの玄関に飾ったりするのが、エジプトではよく見られる光景なのである。手のひらにはちゃんと五本の指がついているのでちょうど5の数字のパワー「魔除け」が発揮されると考えるわけである。

また、エジプトの田舎では、結婚式の時や、メッカの巡礼から無事に帰ってきた時、出所した時などの喜ばしい機会に、その表現として、その家の玄関のところで羊や牛など捧げられたりする。その時はわざわざ肉屋さんを呼んで表で、つまり隣人や通りがかりの人たちの前でなまなましくその家畜を解体するのである。それらの動物の静脈からとるとと落ちる生血が悪霊を払う力があり、神様に祝福されると考え、そのほとぼりの冷めない生血に手をつけて、そのまま血に染まった手のひらでべたべたと家の玄関や壁に手形をつけたり、新しく買った車のボンネットにその手形をつけたりする。他には、結婚初夜などでは、血の代わりに（ヘナ）という赤い天然染料の汁に手をつけて新しい夫婦のベッド・ルームのドアに手形をつけたりするという儀式もある。これによって妬みの視線が少しでも砕け散るだろうし、夫婦の円満な生活が守られると思うのである。もしかすると赤い色というのもエジプトでは強運の色と言えるのかもしれない。これらはエジプト人の信じる縁起物の一部であり、数え上げるときりがないほど、まだまだたくさんありますよ。

エジプト の 縁起物

アハマド・モハメド・ファトヒ・モスタファ
Ahmed Mohamed Fathy Mostafa

カイロ大学文学部日本語日本文学科准教授。
1956年エジプト・カイロ生まれ。2007年以来、国際日本文化研究センター翻訳助成金プログラム・アドバイザリーボードを務め、カイロ大学日本語学科OB・エジプト人日本語話者協会(NPO)会長。『海辺の光景』（安岡章太郎）、『つぐみ』（吉本ばなな）、『義経記』など、古典から現代作品まで幅広い文学作品をアラビア語に翻訳。渥美清氏がご存命なら、エジプトでの寅さん計画が進んでいて、山田洋次監督とも面識が合ったそう。



エジプト人音楽小話

エジプト人はどんな音楽を聴くのでしょうか？エジプトはアラブのエンターテインメント王国。映画やドラマや演劇、アートや音楽興行も盛んな国で、エジプト発のエンターテインメントが衛星チャンネルで、たくさんのアラブ国家で親しまれています。ですから最新のロック、ポップ、ジャズ、クラシック、ヒップホップ etc...一通りそろっていて、若者はインターネットからダウンロードして音楽を楽しみ、裕福な人は、時にはコンサートやライブへ出かけます。

一方エジプトならではの音楽とはどのようなものでしょう？まずは楽器からご紹介しましょう。弦楽器ではウード、と呼ばれる洋梨型のフレットのない旋律楽器。そしてカヌーンと呼ばれる、平たいお琴のような楽器。打楽器では、杯型のダブッカと呼ばれる片面が動物の皮やプラスチックヘッドの打面を持つ太鼓や、レクと呼ばれる本格的な打楽器としてのタンバリンなどがあります。吹奏楽器では、尺八や篠笛とも似ているネイやカワラ、チャルメラのラッパのような音がするミズマールなどがあります。これらは主にアラブの古典音楽や伝統音楽に使われるものです。お琴や尺八なんて、古臭い音楽...と思わないで下さい。エジプト人は老若男女、古い音楽をとっても好んでよく聞きます。毎年ラマダーン(断食月)には、イフ

タールと呼ばれる日没後の最初の食事の後に、各地で無料のコンサートが行われ、これらの楽器で奏でられる煌びやかな音楽を、お茶を飲みながら楽しんだりします。

祭りやコンサートではもちろん、普段でもテレビに専門チャンネルがあったり、ラジオでは一日中流れ、職人やタクシー運転手も好んで聞きながら仕事しますし、生演奏が聴けるカフェもあります。

それだけでなく、これらのエジプトならではの楽器や独特のリズムは、中東各地のポップソングや、ロック、ジャズ、ヒップホップさえにも取り入れられて、愛されているのです。皆さん、興味を持たれたら是非YouTubeなどで検索してみてください。色々なエジプトの音楽を楽しめますよ♪

★検索ワード

ウムクルスーム(有名歌謡歌手)

umm kulthum

アムルディアブ(男性アイドル)

amr diab

ターミルホスニー(男性アイドル)

tamer hosny

ハキーム(大衆ハイポップ) hakim

MTM(ヒップホップグループ)

Sakumichi Ayako



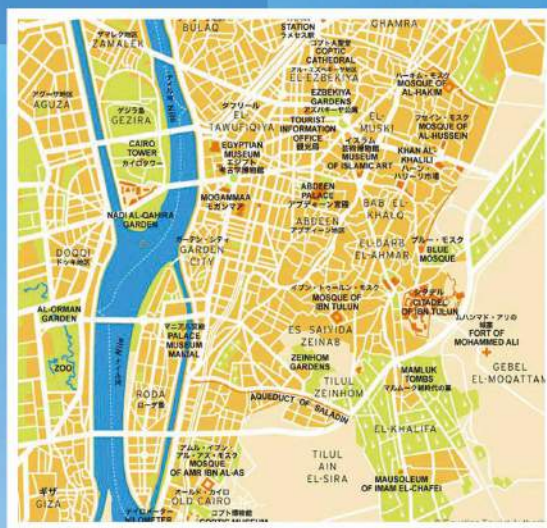
エジプトアラブ歴史文化研究所

エジプトアラブ歴史文化研究所

エジプトアラブ歴史文化研究所では、「エジプトに興味がある！エジプトをもっと知りたい!」というみなさんと、有意義な勉強や交流ができる場を作っていきます。情報の提供や交流など、協力していただける方からの問い合わせもお待ちしています。

エジプト アラブ歴史文化研究所
大阪市中心区谷町6丁目4-8 新空堀ビル303
tel/fax 06-6770-5218

カイロ首都圏の人口は1700 万人を超え、アフリカ、および中東の最大都市であり、その地域を代表する世界都市の一つです。カイロはアラビア語で「アル・カーヒラ」と呼ばれ、これは勝利の都を意味します。中世の頃から「千のミナレットがそびえる街」と言われるように、現在でもミナレットと呼ばれる無数のモスクの尖塔が建ち並び、夕日に染まるカイロの街を眺めると、中世にタイムスリップしたかのような、情緒あふれるエキゾチックな雰囲気があります。カイロ歴史地区として、1979 年文化遺産に登録されており、1990 年には東京都と姉妹都市提携を結んでいます。



カイロ国際空港からタクシーで約40分、まずはこの新市街と呼ばれる地区に入ります。この地区にあり、カイロの中心と言われるのが「タハリール広場」です。その周辺にはモガンマアと呼ばれる政府庁舎ビルや、エジプト考古学博物館などがあり、またカイロ地下鉄のターミナルであるサダト駅もこの地下にあります。2011年エジプト騒乱においては、この広場に民衆が集結し、デモの中心地となりました。このタハリール広場から北東にはタラアト・ハルブ広場があり、その周辺から一帯は繁華街となっています。中洲のゲジュー島には、カイロタワーやオペラハウス、そして日本人も多く住むザマレク地区があります。

新市街から東には旧市街（イスラム地区）が広がります。この地区はファーティマ朝時代に建設された本来のカイロにあたる地域であり、新市街のタハリール広場からタクシーで20～30分で行くことができます。旧市街北部にはアズハル・モスクと988年に創立されたイスラム世界最古の大学であるアズハル大学もあります。また、オスマン建築様式のムハンマド・アリ・モスクもあります。巨大迷路のように大規模なお土産市場であるハンハリーリ市場もあり、最も観光客が集まるエリアと言えるでしょう。

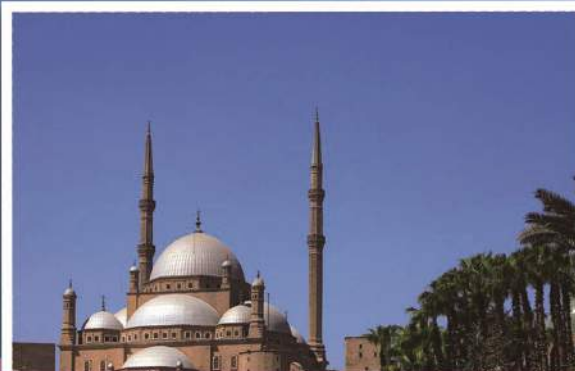
タハリール広場からタクシーで南へ約25分。ここはカイロで最も古い市街地であり、コプト教地区とその多くの古い教会およびローマ時代の防御設備の遺跡があります。





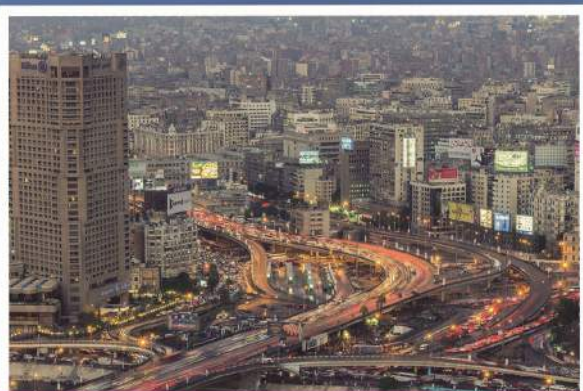
タラト・ハルブ広場 この周辺は繁華街(ダウンタウン)で市民の買い物の場です。

photo by HOSAM MANADILY



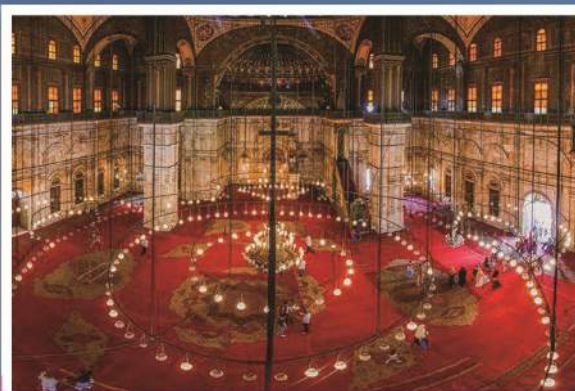
ムハンマド・アリ・モスク

photo by EGYPTIAN TOURIST AUTHORITY



タハリール広場周辺の景色

photo by HOSAM MANADILY



ムハンマド・アリ・モスクの内部の様子

photo by HOSAM MANADILY



ナイル川沿いに立つ蓮の花をイメージした外務省ビル

photo by HOSAM MANADILY



ハンギングチャーチ オールドカイロ

photo by HOSAM MANADILY



考古学博物館

photo by EGYPTIAN TOURIST AUTHORITY



カフェ・フィッシュアウェイ カイロで最古のカフェ。鏡のカフェとも呼ばれています。

photo by EGYPTIAN TOURIST AUTHORITY

神戸北野坂にある「エジプト料理&地中海料理Dining Bar JINA」オーナーシェフの藤原ジーナさんに、家庭でも簡単に作れる美味しくヘルシーなお料理を毎号ご紹介していただきます。

今回はエジプトの国民食ともいえる「ターメイヤ（ファラフェル）」です。ターメイヤとは、そら豆をすりつぶしたものを丸めてフライしたコロッケのような食べ物です。エジプトでは現在、「ターメイヤ」と言われておりますが、これはアラビア語で、元々はファラフェル（古代エジプト語で「たくさんソラマメを使った料理」）と呼ばれており、エジプト以外の国々でもファラフェルと呼ばれています。

ターメイヤは、西暦1000年ごろにエジプトのコプト教徒が四旬節（イースター前の断食）に肉を食べないかわりに栄養源として考え出したもので、一説には古代エジプトですでに食べられていたとも言われているのですよ。だってファラフェル、という言葉は古代エジプト語ですもんね。それはさておき、このターメイヤ、日本ではなかなかお目にかかれませんか。ぜひ私のレシピを参考に作ってみませんか？

◎ 材料 (3人分)

★ 生地の材料

- ・ ひよこ豆（乾燥したもの） 200グラム
～そら豆のかわりです～
- ・ タマネギ 1 個
- ・ ニンニク 2 かけ
- ・ ハーブ（パセリ、イタリアンパセリ、デール）
- ・ コラ

★ 味付けの材料

- ・ 塩
- ・ 胡椒
- ・ クミン
- ・ コリアンダー
- ・ 乾燥したミント
- ・ パプリカ
- ・ ごま
- ・ 卵 1 個
- ・ 炭酸（粉末）←きれいな緑色を保つためです。

★ その他の材料

- ・ サラダ油

★ ソースの材料

- ・ 練りごま（白） 大さじ4
- ・ プレーンヨーグルト 大さじ2
- ・ レモン汁 大さじ1
- ・ 酢 大さじ1
- ・ おろしニンニク 小さじ1
- ・ みじん切りしたパセリ 大さじ1
- ～ この材料を全て混ぜれば、ソースはできあがり ～

★ 作り方

- ① ひよこ豆を一晚、水につけます。
（豆は水をよく吸うのでたっぷり水を張ってください）
- ② 一晚、水につけたひよこ豆（よく水を切ってください）と一緒にその他の「★生地の材料」を全て入れて、フードプロセッサーにかけます。
（形がなくなるまで細かくして下さい）
- ③ ②でできあがった生地をボウルの中に入れ、「★味付けの材料」を加えてよく混ぜて、クッキーの大きさぐらいに丸めます。
- ④ ③を180℃に沸騰したサラダ油に入れ、きれいな色（写真の色のようなこげ茶色）になるまで揚げます。これで出来上がり。

♡ 後はこれをソースをつけて食べたり、アエシ（ピタパンでもOK）にサンドして野菜と一緒に食べたり、お好みでどうぞ♡



エジプト料理&地中海料理 JINA

兵庫県神戸市中央区中山手通1丁目22番10号

象ビル2階(三宮駅から徒歩8分・北野坂上がる右手)

電話:078-271-3195 HP:<http://jinabar.seesaa.net/>

子宝とレタス

子宝とレタス・・・さて、一見なんの関係もなさそうなこの二つ。どういつながりがあるのか、皆さんはどのようにご想像しますか？

日本ではサラダなどの材料として日常的に親しまれているレタス。そのレタスを世界で最初に栽培した国は、古代エジプトだと言われています。なんと4680年もの歴史がある野菜なのです。古代エジプトのレタスの長さは約76センチで、エジプトからローマへ渡り中央ヨーロッパ、南アジア、南ロシアへなど世界中の多くの国々に広がりました。

『レタス』は「牛乳・乳液」を意味するラテン語「lac」「lact」が語源となっています。新鮮なレタスを切った時に出てくる乳白色の液を基に名づけられました。そして、レタスの和名である「チシャ（チサ）」も「乳草（ちちくさ・ちくさ）」の略で、ともにレタスの切り口から出る液体の見た目に基づき付けられた呼び名だそうです。レタスに関するラテン語と日本語の面白い共通点ですね。

さて、ここまでのお話で勘の鋭い読者の皆様はもうお気づきかと思いますが「子宝とレタス」の関係性、そのヒントは上記で説明しました「レタスの切り口から出てくる乳白色の液」にありました。それが男性のみが持つ「おたまじゃくしの団体ご一行様」を連想させることから、古代エジプトでは精力増進をもたらす食材だと思われていたのですね。

古代エジプトの神殿やお墓などの壁画には、供物として描かれたレタスのレリーフが多く残っています。古代エジプトの神々は日本の八百万の神々のように数が多く、その中でも「子宝の神様」であるミン神は大変強い存在感がありました。男性のシンボルが恥ずかしげもなく惜しげもなく表現されたミン神の姿の後方には、ほとんどの場合レタスの葉っぱが描かれています。その他にも、たまねぎやにんにくなども精力増強に効く食べ物だと古代エジプトでは信じられていました。

現在でも意外なところで、間接的にはありますが「子宝とレタス」を連想させるような話がありました。レタスだけのサラダを英語で「lettuce only」もしくは「lettuce alone」と言いますが、その発音が「let us only」、「let us alone」（私たちだけにして）の発音と似ていることから、2人だけになりたい新婚さんをもじって「ハネムーンサラダ」と呼ぶのだそうです。

さて現代のエジプト。古代エジプトとはもちろん違い、鳩料理とエビ料理に男の力の秘密が隠されていると大半のエジプト人が信じています。鳩は平和の象徴として世界で愛されていますが、エジプトでは元気の源として美味しく食されています。新婚さんの初夜には寝室に、ご飯詰めの鳩料理が用意されています。アレキサンドリアや紅海のシャルムエルシェークなど、海に近いリゾート地帯が新婚旅行として人気が高い理由は言わずもがな、新鮮な海の幸。特に花婿はエビを多く食べるようにします。男性同士の食事では魚、サラダ、イカ、エビなどを皆で食べるとしたら、間違いなく全員がエビに釘付けとなり、あっという間に食卓から姿を消します。

その他、精力増強の食べ物の王様と言えば前述した鳩料理とエビ料理を初め、牛・羊の足の軟骨、牛・羊・ラクダの肝臓、心臓、すい臓、脳、睾丸とその間のスティック、レバーなどがあげられます。牛の足の軟骨をスープに入れる、もしくはご飯に乗せて食べると元気になると言われていますし、特に最も値段が高いラクダのレバーは、歯ごたえがあって大変人気があります。それぞれを食べれば夜も万全だ！！と、多くのエジプト人は考えているのです。

また野菜の中では、ルッコラが男を一番強くすると考えられています。食べ方は生のままサラダとして、束の形で食卓に出されます。「奥さんたちがルッコラの重要性を知るならば、旦那さんのためにベッドの下で栽培するだろう！」と言う、有名な言い伝えもあるほどです。笑

皆様もエジプトにお越しの際には、鳩料理やエビ料理、ラクダのレバー料理を堪能すると共に、ルクソールの神殿にて、レタスの傍に立つなんとも個性的なミン神の姿を是非探してみてくださいね。

※こちらの画像は一部異なります。

子宝とレタス

エマード・エルガブリー
(Emad Elgabry)

日本語ツアーガイド。日本の旅行会社主催のガイドオブザイヤーにて最優秀賞受賞。雑学から古代歴史にいたるまで豊富な知識とユーモアを持つ。



大砂嵐より エジプト 世界駅読者の皆様へ

大砂嵐 金崇郎



皆様、こんにちは。

だんだんと夏に向けて暑くなってきましたが、いかがお過ごしでしょうか。五月場所では左肩負傷による途中休場となり、大変悔しい思いをしました。応援して下さいた皆様、ご心配をおかけしました。現在は7月の名古屋場所に向け、日夜稽古に励んでいます。暑くて、毎日ものすごい汗をかきます。名古屋場所はラマダンと重なるので、より意識を高めています。いつか横綱になる姿を心に焼き付けて、信じて、毎日を突き進む。信じることは大きなパワーとなり、いつか現実となる。当たり前のような言葉だと思うかもしれないけど、これは本当のことだよ。

エジプト世界駅は、日本とエジプトを結ぶ唯一のフリーペーパーであり、エジプトの若者の一人として、普段の言葉で語っていける場にしていきたい。そして、多くの日本の皆様にエジプトの今を知ってほしいと思っています。私も配布人として、これからも日本の皆様にご紹介していきます。

そろそろ、エジプトでは大好きなマンゴーも美味しい季節になります。次はいつ帰れるのかな…。まずはそのときまで多くの結果を残せるよう、精一杯努力して参ります。皆様、2015年後半も引き続き応援をよろしくお願い致します。

大砂嵐 金崇郎

カイロっ子たち 相撲を知ろう!



土山 浩子

「エジプトに相撲を広めたい」 大の相撲ファンであり、エジプト在住歴30年の土山浩子さん。大砂嵐関を故郷エジプトから応援し、相撲を通じた文化交流に尽力されています！

2013年11月28日エジプト大砂嵐ファンクラブ発足式が、カイロの日本大使館で行われました。相撲はエジプトではさほど馴染みのないスポーツでしたが、カイロには相撲連盟もあり、毎年開催されるアマチュア相撲世界大会では、エジプト人力士は優秀な成績を残しているのです。2015年アマチュア相撲世界大会は大阪で開催される予定ですが、エジプト人力士には是非とも頑張ってもらいたいと思います。

ここカイロでは2014年5月に「第一回エジプト相撲大会」を開催いたしました。多くの方に呼びかけた成果と、相撲とは何だ？という物珍しさもあってか、会場は多くのカイロっ子たちで熱気ムンムン。かつて大砂嵐関も所属していたエジプトナショナルチーム所属の力士たちによる迫力ある取り組みが土俵で繰り広げられました。勝負が決まる度に、会場は大きな拍手とどよめきでいっぱい！ナショナルチーム所属力士である大砂嵐関の弟、ターレックさんも超重量級の力士相手に奮戦。小兵の力士が大柄な力士を吊り上げたりすると、観客席は熱狂の渦！相撲の面白さを知っていただく大きなきっかけとなりました。同年9月には同じくカイロで「相撲フェスティバル」を開催。相撲についてよりいっそう知って頂けるよう、相撲甚句を流したり、ちゃんこ鍋や相撲型のクッキーを準備し、来場者にご提供しました。ちゃんこはエジプト人の味覚に合うのか心配でしたが、意外にも好評だったんです。（長蛇の列が途切れず、おかしいな？と思ったら何回もおかわりしてくれてたようです）イベントには在エジプト日本大使香川氏を始め、在住日本人の方もご参加くださり、楽しんで頂けたのも何よりです。尚、エジプトではお国柄、肌を見せることは、男性であっても良いこととされないため、廻しの着用は難しく、サポートパンツ（スパッツ）を着用されています。

これらのイベントを通じて、エジプトのメディアでも相撲の記事が目立つてくるようになりましたが、大砂嵐関の活躍をもっと広く、地元エジプトの人々に知っていただき、相撲の魅力を伝えていけたらと思っています。今年2015年は「第2回大砂嵐杯エジプト相撲大会」を開催予定ですが、その際には是非！大砂嵐関と日本のファンの皆様にもエジプトにお越し頂きたいと思っています！相撲を通じて日本とエジプトの交流が更に盛んになるよう心より願っています。頑張れ 大砂嵐！頑張れエジプト！

エジプト大砂嵐ファンクラブ会長 土山 浩子

(E-mail : hodaale@pop.thewayout.net)



根付けプレゼント中!

翠微洞でのお買い物で根付けを1つプレゼントします。
注文手続きページの備考欄にご記入ください。

例:「エジプト世界を見ました。アंक希望。」
(お一人様一回限り・楽天市場店は対象外)



古代文明グッズのネットショップ

「すいびどう」で 検索

<http://suibi-do.com/>

翠微洞

KEBAB SAND ケババサンド



Chicken・Beef
¥500

KEBAB WRAP ケバブラップ



Chicken・Beef
¥600

KEBAB RICE ケバブライズ (ケババ飯)



Chicken・Beef
¥500

SOFT DRINK ソフトドリンク



¥100~

BEER SET ビールセット



¥900~

FALAFEL ファラフェル (エジプトのコロッケ)



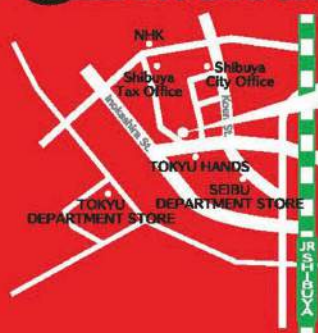
¥500

PARATHA パラタ (クレープ)



¥300

CLEOPATRA KEBAB



Mokhtar (モクタル)

4-7 Udagawa-cho Shibuya-ku, Tokyo, Japan

TEL. 03-6277-5373

MOBILE. 080-3939-2196

渋谷駅ハチ公口から徒歩・東急ハンズさん向かい!
エジプトのケバブが食べれるお店です。
東京都渋谷区宇田川町4-7 東泉ビル1F

CLEOPATRA KEBAB

～3周年を迎えるにあたって～



おかげさまで、エジプト世界駅フリーペーパーは2015年11月で創刊3周年を迎えることとなります。

2012年のある昼下がり、私はアレキサンドリアに向かう列車で、ウトウトと眠りにつこうとしていました。ガタンゴトンと揺れて走る列車の中、流れゆく田園風景や遠くの街並みをぼんやりと眺め、耳元では車内を練り歩く物売りの声や、隣の人のヘッドフォンから漏れる音楽が入り交ざり、混沌としたエジプトらしい列車の光景だったことでしょう。大きなあくびをしようとしたときに、太陽の日差しがふっと私の顔を照らしました。妖精が舞い降りたのでしょうか。その時に「フリーペーパー」をやろう！と思い立ったのです。

私の実家はカイロから列車で約1時間半のタンタという街です。革命の際にカイロのフラットを引き払ってから、実家で生活をしていました。さっそく両親に「日本語のフリーペーパーを作ろうと思う」と話してみました。みんなの反応が見たくてドキドキしながら…。しかしながら、母に「昼食は何を食べるの？」と聞かれました。父は眠っていました。フリーペーパーというものは、エジプトでは馴染みが少なく、あまり知られていないのです。その後、何人かの人にこのアイデアを話しましたが、やはり関心を示す人はおらず、無理だ、時間の無駄だ、という声のみだった。

そんなとき、同じタンタに住む幼馴染みで親友のMustafa Elshinawy にこのアイデアを話してみました。日本語ツアーガイドだった彼は、私のアイデアに興味を持ってきて、やってみたらいい、一緒に手伝うよ、と肩を押してくれたのです。賛成してくれた人は初めてだったので、このアイデアに自信がついたし、とてもとても嬉しかった！まず、私たちはword にエジプトの観光情報やニュースを日本語で書いて、白黒に印刷してホッチキス止めたもの

を知り合いの添乗員さんや友達にまとめて送ってみようとして計画した。今にして思うと、小中学生が作る冊子みたいな、まだまだフリーペーパーとは程遠いものだったけど…(笑)。

そんな私たちの行動を聞きつけたのか、以前に勤めていたカイロの旅行会社が、1000部までなら広告代として印刷に協力すると申し出て下さったのだ。それならオールカラーでもっとかっこいいフリーペーパーが出来る！その機会をありがたうお受けすることにした。日本の各地で配布するには少なくとも2000部は必要だろうと考えていたので、残り半分1000部の印刷代は、なんとか私の貯金から出すことにした。

試行錯誤を繰り返しながら協力して下さる方を呼びかけ、記事を集め、創刊号vol.1が無事完成し、カイロ市内で印刷をした。2000部は段ボールは6個程度だ



photo by SUSUMU YOSHIOKA

ったと思う。一箱で30数キロあった。ずっしりと重い。箱を開けるとインクの匂いがぶーんとした。vol.1が出来上がった！やった！喜びに踊っていたのも束の間、手にとってみると、印刷やカットがずれているもの、ページが抜け落ちているものが次々と出てきたのだ。エジプトの印刷は、どうも荒いことが多いようだ。結局1部づつ中身をチェックして、再度段ボールに詰める、という気の遠くなるような作業をやることになった。ようやく終わり、日本に発送するために、一人で段ボールをかつぎ、郵便局までの道を何度か往復。運び終わって発送の税関手続きをしようとしたところ、今日はもう係員は帰ったよ、と言われ、また1個づつ持って帰ることに…。げっそりとしてしまった。本当は全て航空便で送ったかったけど、費用の都合上、半分は航空便、半分は船便にした。船便だと到着まで約1か月かかった。

その後、vol.3からは幸いにもエジプト観光省に公式スポンサーになって頂ける機会を得ることが出来、エジプトで制作したデータを日本に送り、日本で印刷をするというアイデアも得た。エジプトで印刷をするのと、日本で印刷をする

のとでは、実は印刷料金がほぼ同じであると知ったのだ。日本の印刷はきれいで、紙の質も丈夫で、コストも良いと実感。これなら国際送料もかからないし、日本国内での配送も便利だ。

一緒に世界駅を始めた親友Mustafaは、その後、観光ガイドの工作中に交通事故で亡くなり、還らぬ人となった。そのことは、私に深い悲しみを与えた。いつか毎号5,000冊出せたら最高だね！と2人で夢のように話していたことを思い出す。それはまるで昨日のこのように…。しかしながら3周年を迎える今、当vol.8は10,000冊の印刷数を突破することになったのだ。読者の方も、配布ボランティアをして下さる方も順調に増えている。設置にご協力下さる企業、施設様、さらには展示会やイベントで配布いただける機会も増え、毎号冊数が足りない勢いになってきた。世界駅スタッフも21人、みんなそれぞれに仕事や学業を持ちながらも、時間を作って頑張っている。また、フリーペーパーとは別に、今年は3～5月にかけて、東京・新宿駅構内でエジプト展示会「Egyptian Gallery in Tokyo」を開催し、広くエジプトをPRする機会も頂いた。まもなく8月には銀座駅構内の銀座プロムナードギャラリーでも開催させていただくことになっている。(2015年8月22日～9月5日 ※詳細はエジプト世界駅HPを見てね！)

神様、そしてご協力下さっている関係者の皆様、読者の皆様、スタッフのみんな、そして天国からチャンスを振りまいてくれているMustafaに、深く感謝しています。皆様、本当にありがとうございます。いつまでも、最初の気持ちを忘れずに、エジプトと日本の架け橋となるべく、今後とも活動して参りますので、引き続き応援をよろしくお願い致します。

アブドジダン



photo by SUSUMU YOSHIOKA

A woman with long dark hair, wearing a white sleeveless dress with a blue beaded belt, stands barefoot on a dark rock in the foreground. She is looking up and to the right, with her arms slightly out. In the background, a body of water reflects the sky, and a rocky shore with some greenery leads up to an ancient Egyptian temple with several columns. The sky is a clear blue with a few white birds flying. The word 'Egypt' is written in a large, stylized, blue cursive font in the upper center, with the tagline 'Live the Magic' in a smaller, blue sans-serif font below it.

Egypt

Live the Magic

